

頼末武史主任研究員

世界各地の29人の研究者
で構成される国際研究グル
ープが2020年に発表し
た論文によると、1965
年以降、海などの水圏では
およそ1週間に1種類のペ
ースで外来種が発見されて
います。このような水圏の
外来種の大部分はタンカー
などの大型船舶に付着して
移動したり、小さな幼生が
バラスト水という船舶の重

しとして使われている海水
に混入することで本来の分
布域外の地域に侵入してい
ます。

国際貿易のための大型船
舶の航行量は2050年ま
でに大きく増加すると予測
されており、それに伴う水
圏の外来種の侵入リスクも
大きくなると考えられてい
ます。外来種と聞くと、外
国から日本にやってきた生
物というイメージがあるか
もしれませんが、当然のこ
とながら日本を原産とする
外来種も多くいます。例え
ば私たちになじみのあるワ
カメは、世界各地で生態系
に大きな影響を与える外来



種として有名で、世界の海
産外来種ワースト10に選出
されています。

言うまでもなく海産外来
種問題への対策は地球規模
の国際的な課題でもありま
す。そのため、基礎研究分
野でも国際的なネットワー
クが重要で、冒頭にご紹介
した論文はそういった国際
共同研究による代表的な成
果です。

しかし残念ながらこの論



神戸の沿岸を覆う外来種の
フジツボ類

論文の多くが日本語で書か
れているため、外国の研究
者が読むことができないこ
とが原因だと考えられま
す。

来種の進化や生態に関する
研究をしていて、国際学術
誌に論文を発表し始めたこ
ともあり、知り合いを通じ
て話が来りました。

文の著者に日本人はいませ
ん。それどころか日本での
外来種に関する情報はほと
んど考慮もされていませ
ん。これは主に日本の研究
者の論文が日本語で書かれ
ていないことが原因だと考
えられます。

この論文を読んで以来、
世界の国際的な海産外来種
研究から日本が取り残され
てしまうのではないかと、
大きな危機感を持っていま
す。しかしちょうど同時期
に、海産外来種に関する国
際シンポジウム(ICMB)
のメンバーが日本人の運営
委員を探していて、私が引
き受けることになりました。
私は15年頃から海産外

このシンポジウムには先
どの、世界的に著名な研究者
が多く参加しているのです
が、日本人の参加者はほと
んどいかなかったようです。
結局、国際研究グループも
日本人の研究者を探してい
たようですが、なかなか目
ぼしい人を見つけることが
できなかったのかもしれない
です。シンポジウムはコロ
ナウイルスの影響で23年に
延期となりましたが、基礎
研究分野の研究者として日
本のプレゼンスを示したい
と思います。

ひとはく 研究員 だより

に大きな影響を与える外来

海産外来種研究に課題